

人権なら

●ひと・まち・生き生き

2016年9月1日

第69号

NPO なら人権情報センター

「差別と人権」研究集会へ

9月3日、田原本青垣生涯学習センターで

第8回奈良県「差別と人権」研究集会が9月3日午前9時半から、田原本町・田原本青垣生涯学習センターである。7月末に起きた「津久井やまゆり園」事件と、その衝撃は、私たちに改めて安倍政権の「改憲」への流れと向き合うことを問うているように思える(写真は今年の集会)。



7月の参議院選挙結果を受け、「憲法改正」をめぐる動きは新たな局面を迎えた。自民党の「改憲草案」は現憲法前文を全面的に書き換える。天皇は象徴から元首へ。9条の「戦争の放棄」は消し去り、「国防軍」の保持を明記する。「公益及び公の秩序」を書き加え、表現の自由、結社の自由を制約。基本的人権の保障よりも国民の義務を重視している。加えて、「緊急事態条項」の必要性を唱えている。

こうした政治の流れに連動するものとして、差別を肯定し、ヘイトスピーチを容認し、ヘイトクライム(社会的マイノリティーへの憎しみ、差別憎悪による犯罪)をも許容する意識が広がってきている。貧困と格差の広がりも子どもたちを直撃している。

「生きがたさ」と「格差」がテーマ

今年の「差別と人権」研究集会は「生きがたさ」と「格差」がテーマである。記念講演は薬物などの依存症からの回復に取り組んでいる社団法人GARDEN理事長の矢澤祐史さんをお願いした。第2分散会「サポー

トと共生」でも、新井和彦・県断酒連合会会長と、三宅隆之・一般財団法人ワンネスグループ副代表が報告をしてくれる。

第1分散会「地域共同体と共生」では、「子どもの貧困」をテーマに子ども食堂に取り組む谷口久美子さん(NPO法人CASN・滋賀県大津市)、「こども食堂いかるが」の小田美津子さんと平川理恵さん、教育現場で活動する教員の大家博守さんに報告をお願いしている。現場で格闘されている人たちからの問題提起を受け、議論を深めたい。

「人間と差別」に向き合ってきた私たちだからこそ、知恵を出し合いたい。多くの方々の参加を呼びかける。

大正エイサー練習を見学

9月11日の「エイサー祭り」に向けた大阪・大正沖繩子ども会の練習風景(写真)を7月23日、三宅町「学童クラブ」のスタッフと覗いた。



今年、42回目となる「エイサー祭り」に学童クラブのリーダー(5、6年生)を連れて行くための下見でもある。

「エイサー祭り」は1975年、関西沖繩青少年の集い「がじゅまるの会」発足とともに始まった。「大正沖繩子ども会」が1978年に生まれ、2002



年から、「子どもエイサー団」として続いている。がじゅまるの会初代事務局長・エイサー団指導員、垣花義盛さんは練習のあと、祭りについて説明した=写真。

下関市・大藤園と交渉

ピープルファーストが4回目の抗議行動

ピープルファーストの全国の仲間と支援者30人が8月24日、下関市及び障害者施設「大藤園」との4回目の交渉を行った。この交渉は、大藤園の職員が知的障害のある利用者に暴言を浴びせ、胸ぐらをつかんで体を揺さぶり、額を3回平手打ちする場面が昨年5月、テレビ放送され、虐待の事実が発覚したことから、ピープルファーストが取り組んでいるもの。

この日の取り組みは5月26日の下関市・大藤園・ピープルファースト代表・支援が参加した「虐待に関する事実確



認会」で、告発者が提供した隠し撮りビデオの未公開部分の上映を受けて実現した。

下関市との交渉では、木谷理事長の下では再発防止はできない。理事長の退任とともに、新しい組織体制を早急に確立し、その下で利用者によりよい支援を行うべきである。市として理事長辞任を勧告すべきである、と追及した＝写真。

また、告発者の証言内容について、市の見解を求めた。これに対して福祉政策課長は、社会福祉法による辞職勧告は難しいが、今までの聞き取り調査、事実確認会をみても適任とは言えない部分がある。今後は理事長に対して、辞職も含めた法人運営の指導を強化していくとの考えを示した。

告発者の証言については、日付など細かな相違はあるが、内容については市が把握している内容と変わらないとの回答があり、虐待事実の認識は一致した。

未だに言い逃れを続ける虐待した職員

午後からは、「大藤園」と交渉した＝写真。当事者から、「未だに虐待した職員が言い逃れを続けている

のはなぜか」「法人に改善する力はあるのか」「謝罪は施設長がしているが、本当は支援員が、本人一人ひとりに謝罪すべきである。そのことが支援員本人が反省していることとなる」「理事長は未だになぜ私に話してくれなかった、と言っているが、そんな理事長がいる限りはダメである。本当に変えようという評価には値しない」「理事長はすぐにやめるべきである。施設長からも理事長に辞任しろ、と言うべきである」など、当事者から鋭い意見が飛んだ。

佐藤施設長からは、できることから改善し、職員研修の実施、作業室の改善、職員会議での情報共有、年間支援計画の作成のほか、当事者に様々な体験支援を実施してきているなど、これまでの改善についての取り組みについて説明があった。

理事長の退任と組織体制の刷新を要求

また、5月の事実確認会で観たビデオから、「あのビデオを見る限り、以前より不適切な支援があり、それが虐待になったと思う」との認識を示した。

さらに、社会福祉法の改正によって理事会・評議委員会に当事者を入れることは難しいが、当事者の声を聞いていくことについては、何らかの方法を考えていく、と約束した。

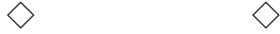


最後は、佐藤施設長に対して、変えなければならぬと、真剣に取り組んでいるようではあるが、小手先の改善だけでは改善にならないし、前に進まない。馴れ合いの改善では解決しない、と強く抗議。木谷理事長に対して辞職勧告を突きつけることを期待する、と結んだ。

ピープルファーストジャパンは今後も、木谷理事長の退任と組織体制の刷新を求めて、闘い続けていくことにしている。（ピープルファーストジャパン全国事務局支援員・宮木一也）

優生思想とたたかう

相模原事件は、発生から1ヵ月余が経過した。事件に対する大きな「衝撃と悲しみ」は続いている。事件について、社会福祉法人ひまわり常務理事の渡辺哲久さんに寄稿してもらった。



津久井やまゆり園の事件について思う

「障害者は、いてはならない」という考えを持った男が7月26日、相模原市の津久井やまゆり園で19人のなかまを虐殺し、29人に大けがをさせた。

障害のあるなかまたちは毎日毎日、いっしょうけんめいに生きている。それを押しつぶそうとする者は、誰であろうと私たちは許さない。



障害者を差別する人はいくらでもいる。しかし、たった1時間で、これだけ多くの障害者を虐殺したやつは、戦後初めてだ。犯人は「やつらをやった！」と興奮して警察に飛び込んだ。犯人は「ナチスの思想が降りてきた」と言ったという。

70年前の戦争のさなか、ヒットラーの「T4作戦」で、障害者・障害児らが病院や施設から集められ、ガス室で殺された。「優秀なアーリア人の血を汚す障害者は抹殺する」という「優生思想」で20万人が殺された。

格差が広がれ怒りや憎しみが差別へ駆り立て

今回の事件で私たちにはしっかりと見えた。今、声を上げなければ、日本でも、そういうことが起きる時代が始まるということが。

すでに、「朝鮮人はウジ虫だ」「朝鮮人を抹殺しろ」というヘイトスピーチがずっとやられてきた。社会の中に格差がどんどん広がり、働いても働いても貧乏から抜け出すことができない若者が増えている。

社会の中に居場所がなく、未来への希望もない。

向けるところのない怒りや憎しみが、差別へと、優生思想へと、駆り立てられていく。その先にあるものは、戦争と、障害者の抹殺だ。だからこそ、知的障害のある当事者による権利擁護の運動・ピープルファーストは、優生思想と真っ向から闘う。

障害者である前に人間なのだ

自分たちの命をかけて、地域の中で地域の人たちとともに生き抜く。

薄っぺらな「優生思想」を、障害ある者がいっしょうけんめいに生きる姿



と、人と人の熱いつながりをもって吹き飛ばす。

精神障害者への措置入院の強化や、監視の強化は完全に間違っている。そうではなくて、入所施設のすべてのなかまを地域に帰そう。生きざまをさらして、地域の中で生き抜こう。自分たちは障害者である前に人間なのだ。

(渡辺哲久・社会福祉法人ひまわり常務理事)

三宅町学童クラブが合宿

三宅町「学童クラブ」リーダー(5年・6年生)が8月26、27日、上但馬団地解放会館で合宿。合宿は、子どもたちが計画。準備し、実行した=写真。



食事やあそび、掃除など、みんなで協力して行った。3時には、おやつ時間をもらった。夕食はカレーライスを料理した=写真。夜は花火をし、「あざさ苑」のお風呂で入浴した。



パンフ・資料をHPにアップ

当センターのホームページにある「人権情報」コーナーに7月28日、「情報発信」として、パンフ1点と資料2点を掲載した。ぜひ、ご覧いただきたい。

「部落問題」をどう伝えていけばいいのか

①あなたの大切な人に「部落問題」をどう伝えますか？－「部落問題」をどう伝えていけばいいのか、の議論を始めるためのパンフレット(2003年7月)

「あなたにとって部落や部落解放同盟のイメージはどんなものですか」というアンケート調査を2001年に実施した。調査対象は当時の解放同盟の活動家のメンバー。その結果、20歳～70歳までの男性110人・女性133人・不詳31人の計274人から、親や大人たちから聞いた話、子どもに伝えた話など、率直な回答を得ることができた。



編集後記 ★★★★★★★★★★★★★★

7月、神奈川県にある施設で障害者19人が殺害された。他に、26人の障害者が傷付けられた。この事件に誰もが強い衝撃を受けた。犯行に及んだ人物は優性思想の持ち主だ。差別排外思想を是としている。人命軽視も甚だしい。欧米諸国でも、移民排斥や、差別迫害を堂々と主張する政治家が人気を得ている。その極右政党は伸長している。私たちの社会は、教育現場や労働現場などで、常に競争を強い、飽くなき効率や利益を求め続ける。優勝劣敗思想が蔓延し、人権思想が希薄化してきた。この社会の歪んだ風潮と対峙し、差別排外主義との格闘を強めていきたいと思う。

「伝え方」に正解というものはない。大切な人に伝えようとして、躊躇し、悩み抜く過程から湧き上がってきた一人ひとりの言葉こそ、大切にしていかなければならないものだ、と考える。

そして、その中から、部落差別を媒介とする関係を変えていくヒントを探り出したい。「部落差別を受けた体験を持つ者が自分の大切な人にそのことを伝える」という営みは、部落差別に出会ったとき、異議申し立てする内容を豊かにしていくのではないか、と思う。

解放へと導く力を育むために

②「1993年実態調査」を基に運動・行政・啓発の問われるもの－何をどう転換するのか(第22回県部落解放研究集会・1995年9月2-3日) ③解放へと導く力を育むために－「差別と出会ったとき、あなたならどうしますか」アンケート調査結果より(第24回県部落解放研究集会・1997年9月6-7日)。

2003年の部落解放同盟奈良県連の「分裂」以降、私たちは同対審「答申」路線との決別を宣言。大胆な発想の「転換」を呼びかけ、格闘を始めた。県連大会や「研究集会」などで議論を重ね、2001年には支部連合会へ組織と規約を変更。2009年10月の「第47回大会」で、2007年秋以降の8回にわたる「部落解放運動の進むべき方向性を考える検討会」での議論を集約し、部落解放同盟の解散を決定した。

以降、NPOなら人権情報センターおよび反差別人権交流センター(絆)として活動を続けてきている。議論は大きく揺れながら現在も続けている。今後もホームページなどでその内容を紹介したい。

ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/